

魚類への供養に関する研究

田口理恵¹⁾・関 いずみ¹⁾・加藤 登²⁾

A Study of Monuments to Pray for Life in Water

Rie Taguchi¹⁾, Izumi Seki¹⁾ and Noboru Kato²⁾

Abstract

This paper offers an overview of the historical practice of constructing of monuments to pray for life in water. Since ancient times, Japanese people have regarded living things as spiritual beings, holding ceremonies and constructing monuments (or cenotaphs, tombs, shrines, stone-works, etc.) for them, as they do for human beings. This has been referred to as *Kuyo* (in Japanese) in Buddhism terms, and Japanese folklore studies consider *Kuyo* for non-human beings as a reappearance of Buddhism-Animism, or the original recognition, in Japanese culture, of nature and life.

In particular, we deal with monuments for life in water, and examine how and why people build such monuments. Our research project, doing field survey and questionnaire surveys of 2141 fisherman's unions and fishery laboratories, confirm 1141 monuments. From 1141 monuments, we examine many varieties among monuments, the kinds of animals represented, the total number of monuments in each region, and their background. Comparing total numbers of monuments from each era, it is evident that the greater part of them were made in the modern age, and that *Kuyo* for life in water is not an old tradition.

It is said that former studies have considered the historical process of *Kuyo* for non-human beings in terms of long time-scales like millennia on that basis, and monuments in the modern age are not dealt with to the same degree. The findings from 1141 monuments, however, suggest to us the necessity of distinguishing to a greater extent why and how monuments are constructed in each instance, and describing the historical practice of *Kuyo* for life in water in shorter time-scales.

1) 東海大学海洋学部海洋文明学科 〒424-8610 静岡市清水区折戸3-20-1

Department of Maritime Civilizations, School of Marine Science and Technology, Tokai University, 3-20-1 Orido, Shimizu-ku, Shizuoka 424-8610, Japan

2) 東海大学海洋学部水産学科 〒424-8610 静岡市清水区折戸3-20-1

Department of Fisheries, School of Marine Science and Technology, Tokai University, 3-20-1 Orido, Shimizu-ku, Shizuoka 424-8610, Japan

(2010年11月1日受付／2010年12月16日受理)

緒 言

近年、ペットの葬儀やペット霊園の問題が話題になるが、死んだ動物を弔い、供養することは、日本では古くから行なわれてきたことでもある。しかも、動物のみならず、植物や針、筆、箸供養、人形供養のように道具類の供養までが行われてきた。そして、動植物も人間同様に靈魂が宿るとみなし、弔い祀る生き物供養の習俗は、日本独自の生命観・自然観を示すものとして注目されてきた。

生き物供養の議論で論拠として取り上げられるのが、放生会という仏教行事の実施と、死んだ生き物のために建てられた墓や塚、石碑などの存在である。放生会は、仏教の殺生戒に基づき、鳥類を放し、魚類を放流することで供養するもので、八幡信仰と結びついて日本各地に広がったとされる(*1)。一方、生き物の墓や塚、石碑等は、上野・忍池の弁天島にある各種の碑や、山形県置玉地方の草木墓のほか、全国各地にある鯨墓やウミガメを祀った亀塚などが代表例として取り上げられてきた。ただし、魚類を供養した碑は、あちこちで見かけられ、「ごく近年に建立された碑も稀ではない」(田中, 2006)などと簡単に触れられるだけであり、これまで魚類を祀った供養碑の全国分布を扱った研究はなされていない。

そこで、魚類を中心にした水域の生き物に対する供養碑や供養習俗の現状を探るために、魚霊供養碑のデータベース構築を目的とした調査研究を進めてきた。この研究では、魚霊供養という表現を表題で用い

るものの、クジラやウミガメも含めた水域の生き物全般を扱っており、水域の生き物を祀るために建てられた碑(いしぶみ)を、水産資源と人間との関わりを示すモノとして捉える。そして、供養碑の全国分布を概観し、建立の背景を検討することは、水産資源の利用にみる地域的な特徴とともに、民俗学研究が指摘してきた、日本における伝統的な自然観・生命観の変容なり現状を明らかにすることができると考えている。

これまでの魚霊供養碑研究の作業成果のまとめとして、本稿では、水域の生き物を祀った碑を紹介するとともに、今後の課題などを確認したい。

材料と方法

本研究では、以下にあげる3点を作業課題として魚霊供養の調査を進めてきた。

- (1) 先行研究や文献資料からの魚霊供養や墓・碑に関する情報収集と整理。
- (2) 漁業事業者へのアンケート調査による供養の現状に関する情報収集。
- (3) 供養碑の所在確認および、供養実践のあり方や地域の水産資源利用の変化などを調べるための現地研究。

以下に、この3つの作業課題での材料と方法および進捗を述べる。

(1) 文献等による情報収集

「供養」とは、仏教的な意味で「三宝や死者の霊などに対して供物を捧げること」だが、「供養の対象は人間

*1) 「放生」の語は『日本書紀』が初見とされる。宇佐八幡宮が奈良時代前期より、石清水八幡宮は平安時代前期から、鶴岡八幡宮は文治3年(1187)より放生会を行なってきたという。これら神社が時の政権が信奉する中核的な存在となり、また各地に勧請されることによって全国に放生会が広がっていったという(田中, 2006: 128-139)。今日でも、寺社の行事として各地で放生会／式が行なわれており、日本の場合、放生会は長い伝統を持つ。

ただし筆者は、放生の問題は供養碑とは分けて取り組む必要があると考えている。つまり、放生は、日本のみならず、東アジアや東南アジアの仏教圏でも広く行なわれているものの、生き物の供養碑を建てることは日本以外では見られないことから、両者には大きな違いがあると考え。仏教行事としての放生会の起源は、唐代の中国において天台宗開祖の智顛がはじまりとされるが、中国における水陸会や東南アジアでの放生行事の展開など、放生会は、日本のみならず、他地域との比較が可能なテーマとなる。

また、放生と放流の違いを考える必要もあるだろう。寺社における行事として行われる放生会のほかに、漁協などが主催する供養祭において魚介類の放生が行われることがある。ただし、供養祭の現場を見ると、寺社内の放生池に放す場合と、資源回復も兼ねて河川や海に稚魚を放流する場合とがある。他方、漁協の行事として、資源回復を目的とした稚魚の放流を、供養祭とは異なる行事として行っている例もある。放生と放流の違いや、放生会から放流事業への変化を辿ることも、自然観の変容を探る手がかりになるのではないだろうか。

から動物、さらには無生物へ拡大されてきた(岩本, 1988)という。しかし、動植物に対する供養の現場を見ると、供養祭が、寺院のみならず、神社を会場にしていたり、神主を招いて行われていることもある。

人間以外の生物への供養を、「牛馬」、「犬猫」、「熊・鹿・猪」、「鯨・海豚・魚鱗」、「鳥」、「虫供養その他」、「亀その他」、「草木」の8つに分類し、生き物供養全般について簡単な整理をした木村は、動植物の殺生や異常死に対して、「お祓いや読経をせずにはいられないところこそが問題なのである。動植物供養もまた、こうした広義の「鎮魂の民俗」といってもよいだろう(木村, 1988:389)と述べている。中村も生き物供養を考える上で、「個々の動物や草木など植物にたいする“殺し”を伴う操作・改変の行為を、自然界全体にたいする人間の負債の感情として受けとめる観念のありよう(中村, 2009)が重要であると述べている。その他の研究者たち(中牧, 1995; 中村, 2001; 松崎, 2004; 田中, 2006)も、生き物供養について、仏教学的に厳密に評価するよりも、地域ごとに行なわれているさまざまな祀りの実態に即して広義に捉えている。つまり、生き物の死に対して、霊を慰め、成仏を願い、その霊が災いをもたらさないようにと行われる儀式・祭事一般を、仏式、神式にこだわらず、生き物供養の問題として捉えているといってもよいだろう。本研究でも「供養」というものを広義に捉え、人間が関わりをもつ水域の生き物に対して、その霊を弔い、その存在を祀るなどの、その生命を尊重する習俗一般を扱う。

生き物の墓や供養碑について全国的な調査も行なわれている。たとえば依田は著書(依田, 2007)のなかで全国の165基の墓・供養碑を紹介しており、その中には水域の生き物に関係する碑が33基含まれている。また、千葉が海に関係する碑を、海難事故や海戦の碑などを中心に630例を集めており(千葉, 1973, 1974)、そのなかに鯨や魚介類の供養碑、記念碑が26基含まれている。

広島市安佐動物公園の大丸が開設するHP「動物園で働く」のなかの「動物のお墓」のコーナーで、自身が訪問した碑を紹介している。大丸は、一か所に複数の供養碑がある場合、同じページに複数の碑をあげており、182ヶ所の碑が紹介されている。そこでは、「漁業」「畜産」「料理」「道具」「医学」「軍用動物」「ペット」「動物園・水族館」「その他」「動物以外の生物」と、10の分類で整理がなされており、その中で水域の生き物の碑

は、「漁業」に46、ほかの分類に17と、63ヶ所の碑があげられている。矢島開設のHP「矢島俯仰・名墓録」にある「名墓録」は、歴史上の人物の墓などをまとめたものだが、そのなかに生き物の供養碑が一部掲載されている。

水域の生き物の供養碑で研究が進んでいるのが、クジラとウミガメを祀ったものである。クジラの墓の全国調査は、進藤直作氏の「鯨塚の研究」が端緒となり、新藤は、瀬戸内海沿岸地域、瀬戸内海への導水路地域、東日本では三陸沿岸の、あわせて265市町村の教育委員会へ情報照会し、隣接する地域も文献や現地調査で調べたという(吉原, 1982)。吉原(1982)は、進藤の成果に自身の調査成果も加え、全国の鯨墓と関連事項を122の項目にまとめている。そこには、クジラを埋葬した墓のほか、過去帳、鯨骨、絵馬、鰐口、灯籠、位牌、梵鐘や、鯨組代表者の墓、納屋、クジラの博物館などの関連事項も含まれている。松崎は、生き物・無生物の供養習俗をまとめた大著のなかで、吉原を補足する形で鯨墓を64基あげている(松崎, 2004)。また、豊後水道沿岸地域に対象をしばり、大分県、愛媛県沿岸に点在するクジラの墓を詳細に調査した宮川・細川(2008)の研究がある。

一方、亀塚あるいは、ウミガメの供養については、藤井(1998, 1999, 2001, 2005, 2008)および小島(2003, 2005)の研究がある。小島(2005)は、藤井の成果も参考にしつつ、全国のカメ塚一覧表を作成しており、そこには134基があげられている。

いくつかの地域では、地域内の石碑、供養碑などを細かく調べた研究がなされている。たとえば、秋田県における魚類の供養碑や関連事項を報告する鎌田の研究(1987, 1989, 1991, 1995, 2004)がある。鳥羽の海の博物館による三重県下の大漁碑や魚介類供養塔の報告(海の博物館資料室・平賀, 1994)や、新潟県の柏崎市博物館による市内の動物関連の石碑の調査報告(柏崎市立博物館, 1998)がある。また、武智が『愛媛県の漁村』のなかで、県内の鯨墓や亀塚および魚介類の供養碑を紹介している(武智, 1996)。

各地の市町村史誌を散見しても、生き物供養の情報を見つけることができる(羽咋のれきし編集委員会編, 1987; 浜岡町史編さん委員会編, 2005; 香川県, 1985; 南知多町教育委員会編, 2000; 静岡県編, 1989, 1991; 土庄町誌編集委員会編, 1971; 八幡浜市誌編集会, 1975)。そのほかに、漁協発行の記念史

(庵治漁業協同組合, 1982; 愛媛県漁業協同組合連合会, 2000; 藤田編, 2002; 兵庫県漁業協同組合連合会, 2005; 香川県漁業史編さん協議会編, 1994)や地元の石造物をまとめたもの(幡豆町教育委員会編, 2005)や、民話・伝承集(菊間町中央公民館, 1985; 珠洲市観光協会編, 1981)などにも、断片的とはいえ、供養祭・供養碑や生き物を祀った寺社などの情報などが記載されていることがある。

インターネットでも生き物供養碑の情報を見つけることができる。先述の大丸 HP による「動物のお墓」が詳しいが、マルハニチロ開設の HP「サーモンミュージアム」や「salmo の情報館」という HP に、サケの供養や民俗伝承などに関する情報が紹介されている。また、荒木公敏氏開設の「くじらランド」内の「鯨文化：鯨を弔った鯨墓・鯨塚など」には、各地のクジラ・イルカの供養碑や神社など 143 基の一覧表が紹介されている。そのほかに、姉崎郷土資料館やえりも町郷土資料館、富良野市生涯学習センター、三重県農水商工部水産基盤室のように、地域内の文化財を紹介欄のなかに供養碑があげられている場合がある。

以上の情報をもとに、水域の生き物に関係する碑や関連事項を集め、1基1項目でリスト化していった。さらに、「魚霊」や「魚供養」などのキーワードで検索すると、供養祭の実施を伝える新聞記事や個人による日記ページなどもひっかかる。個人の日記では、旅行中にめずらしいものを見つけたと、魚霊碑のことが写真とともに紹介されていることがある。新聞記事や個人日記ページにあるわずかな情報をもとに関連事項を調べ、あるいは問い合わせなどをし、供養祭や供養碑についてある程度確認することができれば、供養情報のリストに加えていった。

(2) アンケート調査

先行研究の供養碑情報のみでは、供養碑のある地域や供養対象となる生物に偏りがあるため、それを補うために、現地調査で地域の郷土資料類を調べるとともに、全国的なアンケート調査も行った。

アンケートでの質問内容は Appendix 1 として添付している。このアンケート調査の目的は、文献等による情報の偏りを補うことと、供養碑や供養祭があるか、ないかを知ることを第一とするので、質問内容も単純なものにした。本研究は、3つの作業課題(文献等での情報収集、アンケート調査、現地調査)を組み合わ

せて進めるものであり、アンケートの結果は、現地調査やさらなる情報収集の手がかりとして捉えている。

さて、アンケート調査では、『漁協手帳 2009』(全国漁業協同組合連合会, 2008)などを参考にして、全国の海水面漁協、内水面漁協および水産試験場などの 2141 関係団体に、2010年2月末(1065通)、4月末(479通)、6月頭(597通)と3回に分けて、供養に関するアンケート用紙(Appendix 1)を送付した。このうち 35 通が宛先不明で戻ってきている。

アンケートの回答返送の締め切りを一ヵ月後とお願ひして用紙を送り、2010年9月末までに 893 件の回答を得た。この 893 の回答には、供養碑も供養祭など祭事もないというところもあり、それらは 490 件となる。残りの 403 件の回答が、供養碑の存在や供養祭などの祭事の実施をお知らせくださったものである。そのうち、供養碑や祠などの祀りの対象となる人工物があるのが 220 件、碑はないが供養祭などの祭事があるというものが 183 件となる。

供養祭を行っているという漁協でも、その予算規模も異なり、また「供養祭」や「感謝祭」など、祭事の名称もさまざまである。漁協の漁獲対象の供養を目的に行われる祭事のみならず、海難者と漁獲対象をともに慰霊・供養している漁協や、大漁祈願や安全祈願と供養祭を兼ねて行っているところもある。漁獲物の供養祭はしていないが、大漁祈願や安全祈願祭は行っているという回答もあった。

詳細は省くが、漁協のなかには、アンケートの回答とともに供養碑の写真や関連資料を送ってくださったところもある。青森県の野辺地川漁協や栃木県鹿沼市の小倉川漁協のように、組合員のなかから声があがり供養碑建立を検討中という漁協もある。福井県の九頭竜川中部漁協は、供養碑の製作を依頼したものの、碑の設置場所がなく、いまだ石屋に預けたままになっているということをご教示くださった。そのほかに、組合員が減ったため、供養祭などの祭事が小規模化したり、やめてしまったという話や、そのことを残念に思っているコメントが書き添えられていたり、供養祭をしばらくやめていたものの、関係者に不幸が続いたので供養祭を再開したという話など、現場のさまざまな声をうかがうことができた。

アンケートの回答から見えてきた、供養祭の予算規模や祭事内容の多様性などの問題は、今後、現地調査を進めた後に、別の形で検討していきたい。

(3) 現地調査

文献およびアンケートの回答などで確認できた供養碑の所在地と現状の確認と、関係者への聞き取りおよび郷土資料の収集を目的に現地調査を行ってきた。

2009年には、学生の調査実習も兼ねて、6月に静岡県西伊豆沿岸(岩地から内浦まで)、7月に遠州灘沿岸(御前崎から福田まで)でエクスカージョン調査を実施している。また、8-9月には、浜名湖や袋井で行われたウナギ供養祭に参加した。

2010年2月には、愛知県知多半島南端の沿岸(南知多町を中心)、3月には千葉県房総半島沿岸(館山市、南房総市から鴨川市)での現地調査を行った。2010年8月には北陸調査を行い、福井県敦賀市から沿岸沿いに移動し、石川県の能登半島沿岸を経て、富山県氷見市までを回った。また同年9月には、愛媛県の松山市から宇和島市津島町嵐まで、伊予灘沿岸の現地調査を行った。

以上は、研究メンバーで出かけた広域調査となる。そのほかに、メンバー個々人でも学会などの出張機会を利用して、供養碑の所在確認調査にでかけている。愛知県新城市、幡豆町、大阪府堺市、香川県丸亀市、小豆島、滋賀県米原市、静岡県富士市、兵庫県明石市、神戸市、富岡市、播磨町、東京都品川区、中央区などである。研究メンバーがこれまでに現地確認した170以上の供養碑は、Appendix 2のリストに記号をつけて示している。

以上の、文献を中心として情報収集、アンケート調査、現地調査で得た供養情報を1基1件でリスト化し、生き物供養の基礎データ作成を進めてきた。現時点で水域の生き物に関連する事項は1444件(陸域の生き物も含めれば1923件)となる。もっとも、所在地の情報が乏しい碑もあれば、旧町村名しかわからない場合もあるため、1444件の基礎データはあくまでも暫定的なものであり、郷土資料にあたりつつ現地での所在確認を進めていく必要がある。今後、現地調査をさらに進めていけば、全体数はさらに増えていくだろう。

この基礎データには、アンケートで寄せられた供養祭や大漁祈願などの祭事や、先行研究に従うことで記念碑や灯籠、絵馬などの関連事項もあげている。ここでは、石碑、祠、塔婆、位牌、塚など、祀るために設けられた人工物を広く供養碑としてとらえ、基礎データから供養碑のみをとりだしたものがAppendix 2で

紹介する供養碑リストとなる。この供養碑リストにあげられる供養碑は1141基となるが、文献情報に従うことで、このリストには、すでに喪失し、現在は存在しない碑も含まれる。また、供養碑リストは、1141基を都道府県コード(JIS X0401)に従って並べている。

ところで、千葉県鋸南町にある鯨塚は、町内の弁財天や加治山神社にある、多数の小さな無銘の石宮のことだが、史蹟の説明板に従えば、鯨の碑とされる石宮の数は、弁財天に52基、加治山神社には100基以上となる。しかし、供養碑リストでは、弁財天と加治山神社の石宮群をそれぞれ1件として記載している。また、鎌田(1995, 1991, 1987)は、秋田県における魚供養碑の研究のなかで、県内各所の遺跡で見つかった魚形文刻石11基も取り上げているが、魚形文刻石は背景等不確かな点も多く、リストからは外している。仮に供養祭のために設けられる祭壇も人工物ととらえれば、供養碑の数はさらに増えるが、本稿では、祭事のあとに片づけられる仮設の祭壇は省き、事後も残ることを意図して設けられた人工物のみを供養の碑として取り上げた。

結 果

先行研究では、魚類の供養碑の存在は断片的に紹介されるだけであった。例えば、田中は、魚類の供養碑について、あちこちで見かけられるものであり、「ごく近年に建立された碑も稀ではない」(田中, 2006)と指摘するのみである。また、松崎は、波除稲荷や弁天島の供養塔群を例にあげ、現代の供養を「伝統的な習俗の延長線上にあるものとはいえ、生産形態の変化、あるいは昨今のグルメブームに呼応する形で現代的装いを付加されて出現した習俗」(松崎, 2004)と述べている。調査時点での目新しい現象も、異なる地域の諸事例を広く調査し吟味しているとはいいがたく、むしろ関心は中世からの長いタイムスパンで生き物供養の変遷史を辿ることにあるといえる。これまでの生き物供養研究は、民俗学の方法論に起因する問題でもあるが、乱暴な言い方をすれば、時代ごとに典型的な事例を並べながら変遷史を描きだそうとしてきたといってもよいだろう。しかも、動植物から非生物の供養までを扱って議論するため、改めて水域の生き物という括りで論考を見直すと、限られた事例を日本文化として一般化しているような印象を受ける。こうした先行研究の問題を踏まえると、供養碑リストの検討でまず

べきは、供養の対象、地域性、時代性から見た特徴の整理ではないだろうか。

そこで以下に、供養の対象、地域性、時代性と3点に分けて、供養碑リストから見えてくる特徴をまとめたい。繰り返すが、供養碑リストにある1141基は、現段階までに確認できたものであり、暫定的なものである。今後の調査によって、供養碑の全体数も図表上の数値も当然変わってくるが、それでも、ここで述べる傾向的な特徴は、大きく変わるものではないと考える。

(1) 供養の対象

1141基の供養碑のうち、クジラを祀ったものが200基、ウミガメが226基と、確かに水域の生き物のなかでは、クジラやウミガメの供養碑の数は多い。ただし、祀られた生き物はそれだけに限らない。Table 1にまとめたように、海藻類から、貝類、甲殻類、海水面、内水面の魚類、海獣までと、さまざまな生き物の供養碑が建てられている。

Table 1は、供養碑に記された碑名や呼称に従って祀られた対象を整理したものだ。碑によっては、生き

Table 1 Kinds of life in water to which monuments are dedicated.

It writes in Japanese according to the names of the monument in this table. It applies to () for the name of ceremony. The monument which are there ten or more, * are put on the name.

Group	Sea Water	Fresh Water
Specific	コンブ、ノリ、(ワカメ)	
	アコヤガイ、(アサリ)、(アジ)、アワビ、サザエ、ウミホウズキ、カイ、カキ、シンジュ、バカガイ、ハマグリ	シジミ
	(イカ)、エビ、カニ、(タカアシガニ)、タコ、ユムシ、ナマコ	カエル
	ウミガメ*	カメ、スッポン
	(アナゴ)、アンコウ、イナ、イワシ、カツオ*、コノシロ、ボラ、サバ、サワラ、シラウオ、タイ、ニシン、ハタハタ*、(ハマチ)、(ハモ)、フグ、ブリ、ボラ*、マグロ	アマゴ、アユ*、イワナ、ウナギ*、キンギョ、コイ*、サケ*、ドジョウ、ナマズ、ヘラブナ*、マス*、ニジマス、ヤツメ、ワカサギ
	イルカ*、クジラ*、サメ、ジンベイザメ	
	アシカ、オットセイ、トド、ラッコ、	
Inclusive	魚、諸魚、小魚、湖魚、淡水魚、活魚、魚霊、魚魂、魚族、魚鱗、鱗、魚貝、魚介類、魚貝海虫、魚貝藻、魚介類・海苔、海獣魚類、観音(魚籃、魚天、招魚、魚招)	
Complex	包丁鳥魚、魚包丁、鴨魚、魚鳥、魚獣禽鳥、鳥獣魚、山海漁獵、虫魚鳥獣草木、畜類蚕魚家禽、畜霊魚霊、萬霊、放生など	
Others	エビス、ヒルコ、安波、阿弥陀仏、地藏、波切不動、龍宮、龍王、水神、水天宮、海神、七面、三面	

物の名前の表記が、ひらがな、カタカナ、漢字と異なる場合があるため、Table 1 では供養対象となる生き物の名前はすべてカタカナで表現した。供養碑のなかには、「アワビ・サザエ・ナマコ」、「カメ・コイ」、「イナ・ボラ」、「コノシロ・イナ・ボラ」、「アユ・アマゴ」、「サケ・マス」、「ニジマス・アマゴ」のように、複数の生き物が併記された場合もあるが、Table 1 では碑名に登場する生き物名をあげた。ちなみに、表中()をつけた生き物は、碑名ではなく、供養祭の名称で登場する生き物たちである。

供養碑には、サケやアユのように生き物の名が刻まれた碑のみならず、そのほかに、「魚鳥獣」のような祀る対象を複合的に捉えたものや、「魚」「魚霊」「魚魂」「魚鱗」など、対象を包括的に捉えているものもある。Table 1 では、個別の生き物を祀ったものを Specific、祀る対象を複合的に捉えたものを Complex、包括的に捉えたものを Inclusive と分類し整理している。これら3分類のほかに、その他 (Others) であるのは、漁獲物の供養を含む祭事を、エビス、蛭子、安波、地蔵などの神仏の祠で行っているところである。

個別の対象を祀った供養碑は、クジラやウミガメの碑を除いて数えると 398 基となる。これらの碑から祀られた生き物の種類をみると 60 種となり、供養祭の対象まで含めれば 70 種を超える。生き物それぞれの供養碑数は、そのほとんどが一桁で、同じ対象を祀った碑が 10 基以上あるものは、カツオ、ハタハタ、ボラ、

イルカ、アユ、ウナギ、コイ、サケ、マスと、その種類は限られている。

他方、包括的な供養碑は 270 基、複合的な供養碑は 22 基となり、包括的な供養碑の数は、クジラやウミガメの碑より多い。

(2) 地域と分布

水域の生き物の供養碑は、あちこちで見かけると言われるが、今回の調査で、47 都道府県すべてにあることが確認できた。しかも、国内のみならず、海外にもあることがわかった。

この海外のものは、新潟市の加島屋が、サケ茶漬け用キングサーモンの輸入元アラスカ州エモナックのユーコン川そばの水産会社サケ解体工場近くに建立した地藏堂で、同社では毎年、サケ漁解禁に併せて社員や現地関係者が出席してサケの供養をしているという。

Table 2 に都道府県別の供養碑数をまとめたが、全国各地に供養碑があるとはいうものの、供養碑数には地域差があることがわかる。

供養碑の多い上位 10 県をあげると、秋田 (88 基)、千葉 (86 基)、静岡 (84 基)、愛知 (80 基)、三重 (63 基)、愛媛 (55 基)、大分 (48 基)、長崎 (47 基)、北海道 (41 基)、東京 (40 基) の順となる。これら供養碑数の多い県を例に、供養対象を見ると、東京の 18 種類が最も多く、続いて三重 16、秋田 13、静岡 12、愛媛 9、千葉・北海道が 8、愛知 7、長崎・大分 5 種類となる。

Table 2 Total monuments in each prefecture

Total	Prefecture (total)
80～	秋田(88)、千葉(86)、静岡(84)、愛知(80)
70～	なし
60～	三重(63)
50～	愛媛(55)
40～	大分(48)、長崎(47)、北海道(41)、東京(40)
30～	新潟(38)、山口(33)、岩手(33)
20～	広島(29)、宮城・神奈川(28)、和歌山(27)、兵庫(22)、高知(20)
10～	福岡(16)、京都(15)、香川(14)、石川・滋賀・熊本(13)、茨城・福井・佐賀(12)、山形・山梨(10)
Fewer than 10	富山・岡山(9)、青森・長野・岐阜(8)、大阪・徳島・宮崎・沖縄(7)、埼玉(6)、福島・栃木・奈良・鳥取・島根・鹿児島(5)、群馬(4)、海外(1)

供養碑の数も、祀られた生き物の種類も多い秋田、静岡、三重の3県をみてみよう。秋田県の場合、サケ・マス類の供養碑が多く、サケ、「サケ・マス」、マスの碑だけで32基にもなる。ボラ16基、包括的な供養碑15基、ハタハタ11基のほかに、イワシ、イワナ、エビ、ウミガメの碑が各2基、烏魚、魚鴨、シンジュ、ドジョウ、ワカサギ、ヤツメの碑が各1基ある。静岡県の場合、ウミガメの碑が28基と最も多く、カツオ18基、イルカ11基、包括的10基、複合的な碑6基と続き、このほかに、クジラ、ニジマス、ノリの碑が各2基、アカガイ・ハマグリ、キンメダイ、サバ、ジンベイザメ、ナマズの碑が各1基ある。三重県は、クジラの碑15基とマグロの碑11基に続き、包括的な碑とシンジュの碑がそれぞれ8基、ブリ4基のほかに、ユムシ、コノシロ、イナ、ボラの碑が複数あり、アユと複合的な碑が各2基、バカガイ、ノリ、各1基となる。

3県に限らず、地域ごとに祀られた生き物の種類やその構成は異なり、それぞれの地域性がうかがえる。

(3) 供養碑と時代

供養碑リストの1141基から、建立時期がわかる供養碑688基を取り出し、供養碑と建立時期との関係を概観したい。

江戸時代以前、江戸、明治、大正、戦前の昭和、戦後の昭和、平成に分け、それぞれの時代ごとに基数を整理したものがTable 3である。この表では、時代ごとの供養碑総数とともに、参考として、クジラ、ウミガメおよび包括的な供養碑数の内訳もあげている。

Table 3をみると、水域の生き物を祀った供養碑は、江戸時代に入って増えることと、それ以降、明治、大正、昭和、平成に至るまで、供養碑が建てられ続けてきたことがわかる。明治以降に建てられた供養碑は523基にもなり、供養碑建立は、むしろ近代になってより盛んになったといえる。

供養碑リストを見ると、もっとも新しい供養碑は、2009年に建立された長野県の北安中部漁協による「魚供養碑」や鳥取県米子市漁協による「魚供養塔」となる。また、2008年3月には広島県江の川漁協が「魚魂碑」の除幕式を行っている。同漁協は当初、神社で魚供養をしていたが20年ほど前に辞めてしまったものの、近年の漁獲減少に対して、理事会で魚供養をしようということになり、碑を建立したということだ。2007年には、島根県松江市で日本シジミ研究所が4月23日をしじみの日に制定した記念に「しじみの碑」を建立し、春と秋に、宍道湖周辺の船着場などで「シジミ供養」を行ない、供養と豊漁や安全祈願をしているという。

田中は「ごく近年に建立された碑も稀ではない」(田中、2006)というが、平成期に建てられた供養碑だけで87基もあり、稀ではないといえるところではない。

一方、水域の生き物の供養を目的に建てられた人工物で最古のものは、宇治川の塔の島にある十三重塔ということになる。現在あるものは明治41年に発掘再建されたものだが、もともとは西大寺の観尊が弘安9年(1286)に宇治橋架け替えの際、橋の安全祈願と川の魚たちを供養するために建立したという。江戸時代以前に建てられた人工物は、そのほかに、神護景雲4年

Table 3 Monuments from each era

Period	Monuments in total	Whale monuments	Turtle monuments	Inclusive monuments and their names	
Before Edo Era	4	0	1	1 十三重塔	
Edo Era	131	74	13	16 寺、五重塔、魚類、魚鱗、魚業、萬魚、諸魚、魚籃観音	
Meiji Era	98	39	14	6 鱗、魚鱗、蟹鱗魚、魚籃観音	
Taisho Era	49	2	17	5 魚類、萬魚、魚籃観音	
Syowa Era	Before W.W.II	79	7	30	8 魚霊、小魚、魚介藻類、魚貝藻、魚籃観音
	After W.W.II	240	19	50	79 魚、魚霊、魚魂、魚族、魚類、諸魚類、魚鱗、鱗類、鱗介群、漁霊、魚貝、魚貝類、魚貝海虫、魚介類藻類、巨鯨魚類、海獣魚類、魚籃観音、招魚観音、魚招観音
Heisei Era	87	2	12	42 魚、魚霊、魚魂、魚族、魚鱗、魚介類・海苔、魚籃観音、五重塔	

(769) 創建とされる福岡県の鮭神社や、永和の頃とされる亀の松、室町時代建立とされる福岡県のなまず神社がある。それらは、人間が殺生した生き物を祀るというより、伝承に彩られ、神格化された生き物を祀った例となる(*2)。高僧が殺生戒をおかず民衆のために建立した寺社や、神格化された生き物を祀った人工物は、江戸期にも建てられている。

江戸時代に入ると、人がその殺生に関わった生き物を祀った供養碑が増えていく。江戸期建立の供養碑では、クジラを対象としたものが圧倒的に多く、この時代になると、困窮を救ってくれた寄り鯨への感謝や、捕鯨との関わりで、各地に鯨の供養碑が建てられるようになる。クジラではなく、イワシ、サケ、ニシン、マグロなどの大漁を機会に、魚類への感謝と慰霊のために建立された供養碑が登場するのは1800年代からである。

明治、大正、昭和(戦前)まで、大漁によって困窮から救われたことに感謝して供養碑を建立する例は見られるが、同時に、明治以降は、大漁による売り上げ増や販売先拡大などの事業成功を理由に供養碑が建てられる例も出てくる。

例えば、シンジュ、アユ、アマゴ、ニジマスやノリ、食用蛙などを祀った供養碑は、昭和に入ってはじめて登場するが、これらは養殖業関係者が建立した供養碑である。アユの供養碑で最も古いものは、昭和15年に建立された滋賀県水産試験場醒井養鱒場内の「小鮎塚」である。琵琶湖産の小鮎は、大正末期より県の指導で採捕蓄養輸送の施設が整備され、全国河川に移殖されるようになるが、小鮎塚は、この移殖放流事業の開始から犠牲にしてきた小鮎3億尾の慰霊と小鮎族の繁栄、水産資源開発に貢献することを祈願して建てら

れたものである。醒井養鱒場以外でも、いくつかの水産試験場では、養殖成功の記念碑や実験に利用した魚類を供養するための碑が建てられている(*3)。

また、サケにまつわる碑はどの時代にも建てられているが、昭和に入ると、サケの人工養殖成功記念碑やふ化場に建てられたサケやサケ・マスの碑が登場する。

水域の生き物に対する供養は、漁業者や養殖業関係者などの生産者のみが行っているわけではない。例えば、佃島の住吉神社にある鰹塚は、東京鰹節類卸商業協同組合と東京鰹節取引所が昭和28年に建立したものである。また、神戸市中央卸売市場本場内にある「魚に感謝の碑」(平成4年)や神奈川県の本遠寺にある魚霊供養塔(平成2年)のように、卸売市場関係者が供養碑を建立する場合もある。

先行研究でよく取り上げられる上野不忍池弁財島の供養碑群も、「ふぐ供養碑」は中央卸売市場内東京ふぐ料理連盟が昭和40年に建立、「魚塚」は昭和51年に中央卸売市場内東京魚商業協同組合、昭和40年建立の「スッポン感謝の碑」は村上本家、昭和36年の「包丁塚」が東京・千葉・茨城の料理店でつくる上豊調理会と、水産物の流通や調理分野の関係者が建てたものとなる。

築地市場近くの波除稲荷神社境内にも魚介類の供養碑が集まっており、「活魚塚」(昭和58年)が築地魚市場活物組合、「鮫鱈塚」(昭和48年)は仲卸商、「海老塚」(昭和48年)は東京天ぷら料理協同組合、「すし塚」(昭和47年)は東京都鮪商生活衛生同業組合によるものとなる。先述した新潟の加島屋がサケ茶漬の原料となるサケのために地蔵を建て、あるいは小鯛のさき漬で有名な丸海(小浜海産物株式会社)が魚介類の「感謝の碑」を平成10年に建てているように、昭和以降は、水産加工食品業者が建立した供養碑も登場するようになる。

*2) 三島神社のウナギや阿蘇の鯰神社のようにウナギやナマズを神使として祀っているところや、行基の伝承を持つと鰹塚や蟹塚、弘法大師と塩サバの伝承に基づく鯖大師なども、伝承に関わる特殊な祀り方の例となるだろう。

伝承に基づき特定の生き物を祀っている事例は、全国各地で見られ、供養碑リストにもあげているが、その多くは、供養碑の建立時期を空欄にしている。つまり、寺社の創建年が、特定の生き物を祀る信仰の始まりとは一致しないであろうし、伝承自体の成立期がよくわからない場合も多いためである。

*3) 場内に供養碑のある水産関係の研究機関を具体的にあげると、青森県内水面水産試験場、神奈川県水産技術センター内水面試験場水産試験場、岐阜県河川環境研究所下呂支所、熊本県水産研究センター、群馬県水産試験場、滋賀県水産試験場醒井養鱒場、鳥根県水産技術センター、広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター、福井県水産試験場、水産総合研究センターさけますセンター帯広事業所および千歳事業所、北海道立釧路水産試験場、宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場、宮崎県水産試験場、宮崎県水産試験場小林分場、山梨県水産技術センター忍野支所などである。

ちなみに、波除稲荷神社では、紀文魚霊祭、マルキ・マルナガイ魚霊祭、なぎさ会による穴子供養祭が行われているという(松崎, 2004:91-94)。そのほかにも、マルハニチロが北海道函館の称名寺にて従業員物故者と魚介類供養のための施餓鬼法要を、ニッスイは報鱗供養を毎年行っているという。

また、昭和51年に建立された日本へら鮎釣研究会福井支部によるヘラブナ供養碑のように、戦後になると、レジャーとしての釣りに関係した場所に、魚類を祀った供養碑が建てられるようになる。

水域の生き物の供養には、魚介類の生産者となる漁業・養殖業関係者のみならず、魚商や卸売市場などの流通分野や、料理組合や加工食品会社などの加工分野まで、水産業界のさまざまな事業者が関わっており、明治以降の供養碑の増加は、こうした供養主体の多様化とともに進んできたといえる。

特筆すべきは、「魚霊碑」「魚魂碑」のような包括的な供養碑のほとんどが戦後に建てられているということである。戦後に建立された包括的な供養碑は121基もあり、これらを見ると、漁協にとっての漁獲対象全体や、水試が扱う実験魚全体など、よりたくさんの生物を供養の対象とするために、包括的な名称が選ばれるようになったと思われる。また、個別の生き物を祀るために建てられた供養碑でも、包括的な碑名がつけられる場合も出てくる。

なかには、「魚介藻類慰霊碑」(広島工業港修築事業に関連して昭和15年に建立)や、「魚貝類海虫」(堺市出島漁協が昭和37年に建立)、「魚介類・海苔供養塔」(丸亀市漁協, 平成16年)のように、港湾工事による海の埋め立てで影響を受けたであろう沿岸の生態系を意識して建てられた供養碑もある。

漁港整備工事をきっかけに建立された碑のほかに、戦後になると、ダム建設や開発工事に伴う漁業権放棄などをきっかけとしたものや団体の創立記念などをきっかけとした供養碑も登場する。時代が下るにつれて、供養碑建立の契機も、供養対象の生き物も多様化してきた。

議 論

これまで断片的に紹介されるだけだった水域の生き物を祀った碑も、今回の調査研究によって国内に1100基以上の碑が存在することが明らかになった。建立時期のわかる供養碑を検討すると、供養碑の多く

が明治以降に建てられ、近代以降は、供養対象となる生き物も、建立契機や建立主体も多様化してきたことがわかった。そして、多くの供養碑の前では、今も、広くに社会に知られることなく供養祭が関係者のみで粛々と執り行われている。アンケートの回答や現地調査を通して関係者の声を聞けば、供養碑それぞれに、それを建てた人々の、生業を支えてくれる自然や生命への思いや、建立時の時代状況が刻み込まれていることがわかる。

明治以降の漁法の近代化や増養殖技術の目覚ましい発展は、漁獲量を増やしてきたのと同時に、出荷されず捨てられる生物の数を増やしてきた過程でもある。近代の供養碑の建立契機をみると、大漁のみならず、海難事故をきっかけとしたものや養殖事業の成功を記念して建てられたものもある。あるいは、赤潮による魚介類の大量死や、養殖場で発生する死魚の慰霊を目的にしたもの、漁港整備工事やダム建設などの開発工事や、それに伴う漁業権放棄などと、建立契機はさまざまである。こうした建立契機をみると、日本水産業の発展過程に沿うように、各地で供養碑が建てられてきたともいえるだろう。

長いタイムスパンでみた供養の変遷史では、近代以降の供養碑の増加や戦後の包括的な供養碑の増加も、供養対象の広がりや供養主体、建立契機が多様化の意味などを十分に議論することができない。近代に建立された500基以上もの供養碑を前にすると、明治以降の漁業の近代化や水産業の発展という、100年ほどの短いタイムスパンでの供養の変遷史を吟味する必要があるをええない。もっとも、短いタイムスパンでの供養の変遷史を描き出すためには、供養碑や供養祭を個々に取り上げ、詳細な事例研究を積み上げていくほかない。そこで、今後事例研究を進めていく上での課題もしくは留意点を最後にまとめておきたい。

(1) 生き物の境界と変容

生物学的に見た水域の生物と、人間の側が霊／魂／命を持った存在とみなす対象、つまり文化的な存在としての生き物は同義ではない。事例研究として供養習俗を検討する際、水域の生物のなかで、どこから、もしくは何が生き物とみなされるのかに留意することで、生き物の境界や時代による境界の変遷を考えることができるだろう。例えば、戦後に包括的な供養碑が急増することや、特定の生き物に対する供養の有無で

地域差がみられることなどは、生き物の境界の変化やゆらぎを示唆してくれる。また、生態系のつながりでもみた微生物や海藻類の位置づけ、あるいは、水産加工品の原材料の扱われ方をみることも、生き物の境界を考える手立てになるだろう。

供養碑リストには、コンブ、ワカメ、ノリや藻類の碑もあるが、藻類を供養の対象として明示している供養碑は、広島県の「魚介藻類慰霊碑」や「魚貝藻之霊塔」、愛媛県の「魚介藻霊供養塔」、香川県の「魚介類・海苔供養」などわずかである。海藻の碑の多くは、養殖事業成功の記念碑や養殖普及に貢献した人物の顕彰碑であり、あるいは東京湾の埋め立てに伴う漁業権放棄をきっかけに、これまでの事業の軌跡を残すために建てられた記念碑となる。他方、福井県のワカメ献供祭や、伊勢神宮や海士潜女神社で行われる海藻神事のように、海藻が神への供物・神饌として扱われる場合もある(*4)。しかし、海藻を供養対象として扱ったり、供物として利用する事例は、魚類に比べるとかなり地域が限定される。海藻類を供養対象や供物にする地域での、人びとと海藻類との関わりや、供養碑建立の契機や祭事の現状を探ることで、生き物としての海藻のあり方を考えることができるだろう。

先述したように、水域の生き物の供養を行う関係者は、近代以降、生産、流通、加工分野へと広がってきたといえる。供養祭を実施していたり、供養碑を建てた企業や水産加工業者をいくつか確認できたが、実際に、水産業界のなかで生き物供養はどこまでの広がりをもつのだろう。供養祭を行っている企業をさらに調べていくことで、原材料として利用される水産資源が、どのような契機や理由付けでもって供養の対象とみなされるのかが見えてくるだろう。

(2) 地域の漁業と供養実践の現代的諸相

水域の生き物供養の主体は、生産、流通、加工分野の関係者と幅広いが、それでも、供養碑建立や供養祭実施を担っているのは、その多くが生産者である漁業関係者である。したがって、地域ごとの漁業の盛衰が、生き物供養のあり方に大きく影響を与えていることが考えられる。

明治以降、漁法・技術や漁協組織の近代化や、戦争

による漁船接収、戦後の漁港整備事業や施設整備、近年の漁協合併の動きに至るまで、漁業のあり方は時代とともに変化しつづけてきた。いわば、近代漁業史は変革の歴史でもある。その大きな流れのなかで漁業関係者が経験してきたことは地域ごとに大きく異なる。

アンケートの回答をみても、供養碑もなく供養祭もしていないという回答が490件もあり、また、供養祭を実施しているといっても、漁協によって祭事にかかる予算の規模は異なる。漁獲対象の供養祭を、海難者の慰霊といっしょに行っている漁協や、大漁祈願や安全祈願と兼ねて行っている漁協もある。また、以前は祭事を行っていたが、組合員の減少や高齢化にともない規模を縮小したところや、祭事を続けられなくなったところもある。その一方で、能登なまこ加工協同組合は、地域ブランド化のためにナマコ供養を計画し、2010年3月にはじめて供養祭を行っている。西伊豆の安良里のように、これまでの供養が衰退したものの、近年になって祭りや供養碑の保護などを行う住民グループが現れるといった事例も見られ、このような新しい動きの背景には、供養を通じた地域活性化や観光のための誘客といった新たな意義が含まれていると考えられる。

もう一つ興味深い事例を紹介しよう。中部電力浜岡原子力発電所内にある亀塚は、ウミガメの形をした大きな台座の上に、「亀塚」と彫られた石柱をのせたものだが、石柱は、明治16年5月30日に佐倉村船元中が建立したものである。地引網を中心とした佐倉村の漁業が衰退するといつしか石柱も忘れられてしまった。昭和46年に発電所タービン建屋の工事で埋もれていた石柱や馬頭観音が見つかり、中部電力は、亀型の台座を用意し、馬頭観音とともに亀塚の設置場所を整備した。そして、毎年、その場所で発電所の安全祈願もかねた供養祭を行っているという。また、亀塚の周辺にはウミガメの墓が複数あり、冷却プールに紛れ込むウミガメの死骸を埋葬しているという。この例は、供養碑そのものは変わらないものの、供養の主体も祭事の目的も、対象生物との関係も大きく変化した事例となる。

現地調査で教えられるのは、地域社会における供養習俗の複雑さや、供養の複合的なあり方であり、また

*4) このほかに、福岡県の早鞆神社、山口県の住吉神社、島根県の日御碕神社、紫菜島神社でも、海藻を供物とする海藻神事が行われている。

漁業の盛衰に応じて簡単に形を変えてしまう供養の実態である。また、現場で見られる新しい動きから、供養の現代的な役割も見えてくるのではないだろうか。だからこそ、地域ごとに漁業の変容過程と生き物供養の関係に留意しつつ、詳細な事例研究を積み上げていきたい。日本の漁業や水産業の今後を考える上で、経済面の議論だけでなく、この業界が育ててきた生き物供養という文化的な営みの行方もあわせて検討していく必要があると考える。

謝 辞

・この調査研究は、平成21年度科研費(挑戦的萌芽研究)「魚霊供養からみる海洋資源の利用と変化－魚霊供養碑データベースの構築」(代表・田口理恵, 分担者・加藤登, 関いずみ), 日本學術振興会の異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業「日本の環境思想と地球環境問題－人文知からの未来への提言」(代表・秋道智彌), 人間文化研究機構・連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」(代表・秋道智彌)によるものである。

また、科研による調査には研究協力者として山西秀明(東海大学大学院海洋学研究科海洋生物科学専攻)が参加している。

・魚霊供養アンケートに回答くださった漁協および水産試験場関係者のみなさまのご理解とご協力に、この場を借りて心より感謝申し上げます。

また、このアンケート調査を実施するにあたり、以下の学生たちが協力してくれました。池田大介, 石黒修平, 井戸建仁, 今枝真由子, 大貫裕志, 大場希, 岡野洋介, 河端祐介, 菊池龍王, 瀬倉早紀, 佐藤卓哉, 清水麗, 高橋宗沖, 田中美紀, 津島海人, 中澤祐生, 野口佳澄, 原知輝, 平田貴大, 前田孝史, 松倉葵, 松本慎之介, 村山雅彦, 望月大祐, 山崎裕之, 渡辺未里。

現地調査には、浅野高史, 加藤毅, 菊池英紀, 久保田智博, 小池隆志, 工藤和人, 高野梨央, 西元勇人, 福岡絵里, 藤原亜季, 藤野未音, 舟久保昇, 野口佳澄, 松倉葵, 水野竜一郎, 山本泰広が参加協力してくれました。学生たちに感謝します。

引用文献

庵治漁業協同組合(1982): 庵治漁業組合史。庵治漁業協同組合。574 p.

千葉新治(1973): 海の碑。海事史研究, 21, 82-110.

千葉新治(1974): 海の碑(二)。海事史研究, 22, 114-132.

愛媛県漁業協同組合連合会(2000): 愛媛の漁業と県漁連50年史。愛媛新聞社。395-398, 420-427.

藤井弘章(1998): 紀伊半島南部におけるウミガメ漁とその食習俗。日本民俗学, 215, 49-79.

藤井弘章(1999): ウミガメと流木にまつわる漁撈習俗。エコソフィア, 4, 119-135.

藤井弘章(2001): 地域差と時代差からみたウミガメの民俗: 海村・離島追跡調査から。成城大学民俗学研究所紀要, 25, 115-141.

藤井弘章(2005): 知多半島のウミガメ埋葬・供養習俗。名古屋民俗叢書, 4, 30-54.

藤井弘章(2008): 対馬・壱岐におけるウミガメの民俗: 亀卜の里とウミガメ(壱岐・対馬の民俗)。民俗文化, 20, 181-240.

藤田寿代(編)(2002): ななか漁業協同組合発足50周年記念誌「十年をめざして」。ななか漁業協同組合。28 p.
羽咋のれきし編集委員会編(1987): 金魚地蔵, 羽咋のれきし。羽咋市教育委員会。226.

幡豆町教育委員会(編)(2005): 幡豆の石碑。幡豆町教育委員会。68.

浜岡町史編さん委員会(編)(2005): 浜岡町史 民俗編。浜岡町。724 p.

兵庫県漁業協同組合連合会(2005): 漁友鎮魂之塔－兵庫県漁民合同慰霊塔30年のあゆみ。兵庫県漁業協同組合連合会。43 p.

本田健二・斎藤行雄(1983): 臼杵市の魚鱗供養塔について。臼杵史談, 74, 29-32.

岩井田作太郎(1996(1916)): 鮭神に就て, 谷川健一編, 鮭・鱒の民俗(日本民俗文化資料集成19)。三一書房。319-320.

岩本裕(1988): 供養。日本佛教辞典。平凡社, 217.

香川県(1985): 香川県史14(民俗)。四国新聞社。843 p.

香川県漁業史編さん協議会(編)(1994): 香川県漁業史通史編。香川県漁業史編さん協議会。43-63, 1218-1219.

柏崎市立博物館(1998): 柏崎の動物供養塔(柏崎市石造文化財調査報告書第4集)。柏崎市立博物館。45 p.

鎌田幸男(2004): 鮭漁の川かけと供養碑。民具研究, 130, 17-22.

鎌田幸男(1989): 魚供養塚の考察。論叢／秋田短期大

- 学, 43, 68-80.
- 鎌田幸男(1987): 鯿漁と供養塚. 民具マンスリー, 20-9, 8-18.
- 鎌田幸男(1991): 魚形文刻石と魚供養塚・魚祭碑の考察. 秋田地方史の展開. みしま書房. 273-293.
- 鎌田幸男(1995): 魚供養塚等に関する追稿. 秋田民俗, 21, 55-63.
- 川島秀一(2005): カツオ漁(ものと人間の文化史127). 法政大学出版会. 343 p.
- 木村博(1988): 動植物供養の習俗. 仏教民俗学大系四 祖先祭祀と葬墓. 375-379.
- 菊間町中央公民館(1985): きくまの民話と伝説(第1集たぶらかされた話). 菊間町中央公民館. 77-78.
- 神戸新聞淡路総局(編)(1983): 淡路祭事記365日. 神戸新聞出版センター. 128.
- 小島孝夫(2005): 漁撈習俗伝播の諸相-資源分布と文化変容. 小島孝夫(編)海の民俗文化-漁撈習俗の伝播に関する実証的研究. 明石書店. 243-348.
- 松崎憲三(2004): 現代供養論考-ヒト・モノ・動植物の慰霊-. 慶友社. 514 p.
- 南知多町教育委員会(編)(1996): 峠の龍亀信仰とおかめさん. 南知多町誌資料編, 5, 南知多町教育委員会. 294-296.
- 宮脇和人・細川隆雄(2008): 鯨塚からみえてくる日本人の心-豊後水道海域の鯨の記憶をたどって. 農林統計出版. 281 p.
- 森崇史(2000): 南知多町の龍神信仰, 南知多町教育委員会編. 南知多町誌補遺版, 3, 21-26.
- 中牧弘允(1995): アニミズム. 81-88. 増補 宗教に何がおきているか. 平凡社.
- 中村生雄(2001): 祭祀と供犠-日本人の自然観・動物観. 法蔵館. 303 p.
- 太田頼資(1777): 能登名跡誌. 52-53.
- 酒井久美子(2004): 漁人を生きた人々-酒井光雄七回忌追悼-. 富山新聞社. 125 p.
- 静岡県民俗芸能研究会(1988): 静岡県・海の民俗誌 黒潮文化論の詳細. 静岡新聞社. 129-132, 190-205.
- 静岡県教育委員会(1986): 伊豆における漁撈習俗調査 I -戸田村・土肥町・加茂村・西伊豆町・松崎町・南伊豆町(静岡県文化財調査報告書第33集). 静岡県教育委員会. 213 p.
- 静岡県(編)(1989): 民俗1(静岡県史資料編23). 静岡県. 1282 p.
- 静岡県(編)(1991): 民俗3(静岡県史資料編25). 静岡県. 1187 p.
- 珠洲市観光協会(編)(1981): 珠洲地方の昔ばなし. 珠洲駅観光センター. 2-4, 24-25.
- 瀬戸内海歴史民俗資料館(編)(1993): 海の道調査報告書(香川県歴史の道調査報告書第11集). 瀬戸内海歴史民俗資料館. 36-56.
- 菅豊(2000): 修験がつくる民俗史-鮭をめぐる儀礼と信仰-. 吉川弘文館. 284 p.
- 高木大祐(2008): 那智山と遠洋漁業-青岸渡寺の魚籃供養碑をめぐる-. 西郊民俗, 203, 1-9.
- 高木大祐(2006): 造園業者と草木供養塔-技術と世界観の分析を中心に-. 民具研究, 133, 75-82.
- 高木大祐(2005): 漁撈儀礼と供養-東北地方の鮭供養を事例に-. 西郊民俗, 192, 1-9.
- 高木大祐(2004): 草木塔の現代における意義. 常民文化, 27, 53-75.
- 武智利博(1996): 愛媛の漁村. 愛媛文化双書刊行会. 277 p.
- 田中宣一(2006): 供養のこころと願掛けのかたち. 小学館. 253 p.
- 土庄町誌編集委員会(編)(1971): 土庄町誌. 土庄町誌編集委員会. 352-353.
- 上戸を知ろう会(編)(1992): 上戸集落誌. 上戸を知ろう会. 97-98.
- 海の博物館資料室調査・平賀大蔵(編)(1994): 三重県下の海の石碑・石塔(1)-大漁碑・魚介類供養塔-. 海と人間, 22, 2-35.
- 渡部文也(1996): 海からの眼-愛媛の漁業・漁村. セキ株式会社. 18, 108-113.
- 渡部文也・高津富男(2001): 伊予灘漁民誌. 愛媛県文化振興財団. 271 p.
- 八幡浜市誌編纂会(1975): 八幡浜市誌. 八幡浜市誌編纂会. 601-602.
- 吉原友吉(1997(1982)): 鯨の墓. 谷川健一編, 鯨・イルカの民俗(日本民俗文化資料集成18). 409-478. 三一書房.
- 依田賢太郎(2007): どうぶつのお墓をなぜつくるか. 社会評論社. 197 p.
- 全国漁業協同組合連合会(2008): 漁協手帳2009. 全国漁業協同組合連合会.

Appendix 2 Continued

Table with columns: No., Address, Name, Date, Details, etc. containing a list of 164 entries related to religious or historical sites in Aki.

Appendix 2 Continued

364	鳥類	魚・供養碑	餅・いと・ねんごにりあ	東京	山崎山崎集楽	昭和3年	1832	東京都中央区	山崎山崎集楽	日頃から恩恵を受けている鳥類を祀り、「鳥神社」の供養を願う。この鳥神社、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。鳥居の境内には「鳥神社」の供養を願う。この鳥神社、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
365	カハ	鳥大師	福生院	東京	福生院	天保8年	1832	東京都中央区	福生院	鳥居の境内には「鳥大師」の供養を願う。この鳥大師、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
366	ウツ	魚神社	中川漁協	神奈川	中川漁協	平成4年	1992	神奈川県中野区	中川漁協	鳥居の境内には「魚神社」の供養を願う。この魚神社、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
367	魚類	魚供養碑	福住神社	神奈川	福住神社			神奈川県川崎市	福住神社	鳥居の境内には「魚供養碑」の供養を願う。この魚供養碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
368	魚類	魚霊供養塔	帯巻漁業村	神奈川	帯巻漁業村			神奈川県川崎市	帯巻漁業村	鳥居の境内には「魚霊供養塔」の供養を願う。この魚霊供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
369	魚類	魚霊供養塔	日ノ文字橋上流左岸	神奈川	日ノ文字橋上流左岸			神奈川県川崎市	日ノ文字橋上流左岸	鳥居の境内には「魚霊供養塔」の供養を願う。この魚霊供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
370	フユ	鮎塚	埋初漁協	神奈川	埋初漁協	昭和33年	1958	神奈川県川崎市	埋初漁協	鳥居の境内には「鮎塚」の供養を願う。この鮎塚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
371	フユ	鮎供養石塔	元産院	神奈川	元産院			神奈川県川崎市	元産院	鳥居の境内には「鮎供養石塔」の供養を願う。この鮎供養石塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
372	魚類	魚頭碑	渡川漁協	神奈川	渡川漁協			神奈川県川崎市	渡川漁協	鳥居の境内には「魚頭碑」の供養を願う。この魚頭碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
373	フユ	鮎供養碑	渡川漁協	神奈川	渡川漁協	昭和33年	1958	神奈川県川崎市	渡川漁協	鳥居の境内には「鮎供養碑」の供養を願う。この鮎供養碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
374	魚類	魚霊観音	朝妻寺	神奈川	朝妻寺	昭和57年	1982	神奈川県川崎市	朝妻寺	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
375	魚類	魚霊観音	朝妻寺	神奈川	朝妻寺	昭和11年	1878	神奈川県川崎市	朝妻寺	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
376	魚類	鮎供養塔	朝妻寺	神奈川	朝妻寺			神奈川県川崎市	朝妻寺	鳥居の境内には「鮎供養塔」の供養を願う。この鮎供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
377	フユ	海苔弁天	菅野八幡宮	神奈川	菅野八幡宮			神奈川県川崎市	菅野八幡宮	鳥居の境内には「海苔弁天」の供養を願う。この海苔弁天、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
378	フユ	海苔供養祭文・土俵	川南大師平間寺	神奈川	川南大師平間寺			神奈川県川崎市	川南大師平間寺	鳥居の境内には「海苔供養祭文・土俵」の供養を願う。この海苔供養祭文・土俵、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
379	フユ	大師海苔・土俵	川南大師平間寺	神奈川	川南大師平間寺			神奈川県川崎市	川南大師平間寺	鳥居の境内には「大師海苔・土俵」の供養を願う。この大師海苔・土俵、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
380	川	川	川	神奈川	川	昭和40年	1973	神奈川県川崎市	川	鳥居の境内には「川」の供養を願う。この川、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
381	魚類	魚霊供養塔	本壽寺	神奈川	本壽寺	平成2年	1990	神奈川県川崎市	本壽寺	鳥居の境内には「魚霊供養塔」の供養を願う。この魚霊供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
382	魚類	魚頭供養塔	神奈川漁業技術センター	神奈川	神奈川漁業技術センター	平成8年	1996	神奈川県川崎市	神奈川漁業技術センター	鳥居の境内には「魚頭供養塔」の供養を願う。この魚頭供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
383	マヅ	マヅ供養塔	ワラジの稲戸	神奈川	ワラジの稲戸			神奈川県川崎市	ワラジの稲戸	鳥居の境内には「マヅ供養塔」の供養を願う。このマヅ供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
384	魚類	魚霊供養碑	フッソグランドパーク	神奈川	フッソグランドパーク			神奈川県川崎市	フッソグランドパーク	鳥居の境内には「魚霊供養碑」の供養を願う。この魚霊供養碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
385	フユ	鮎供養塔	相模川	神奈川	相模川	昭和42年	1967	神奈川県川崎市	相模川	鳥居の境内には「鮎供養塔」の供養を願う。この鮎供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
386	フユ	鮎供養塔	相模川	神奈川	相模川			神奈川県川崎市	相模川	鳥居の境内には「鮎供養塔」の供養を願う。この鮎供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
387	フユ	鮎供養塔	相模川	神奈川	相模川			神奈川県川崎市	相模川	鳥居の境内には「鮎供養塔」の供養を願う。この鮎供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
388	魚類	築路動物園碑	築路動物園	神奈川	築路動物園			神奈川県川崎市	築路動物園	鳥居の境内には「築路動物園碑」の供養を願う。この築路動物園碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
389	鳥類	須賀・阿弥じま	須賀	神奈川	須賀			神奈川県川崎市	須賀	鳥居の境内には「須賀・阿弥じま」の供養を願う。この須賀・阿弥じま、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
390	ウツ	代次塚	代次塚	神奈川	代次塚	天保5年	1834	神奈川県川崎市	代次塚	鳥居の境内には「代次塚」の供養を願う。この代次塚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
391	ウツ	鮎塚	紗糸寺	神奈川	紗糸寺	昭和3年	1928	神奈川県川崎市	紗糸寺	鳥居の境内には「鮎塚」の供養を願う。この鮎塚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
392	ウツ	鮎塚	金蔵院	神奈川	金蔵院	昭和50年	1975	神奈川県川崎市	金蔵院	鳥居の境内には「鮎塚」の供養を願う。この鮎塚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
393	魚類	本校漁業共同組合記念碑	本校市民公園	神奈川	本校市民公園	平成4年	1992	神奈川県川崎市	本校市民公園	鳥居の境内には「本校漁業共同組合記念碑」の供養を願う。この本校漁業共同組合記念碑、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
394	魚類	魚霊観音	大森寺	神奈川	大森寺			神奈川県川崎市	大森寺	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
395	ウツ	鮎供養塔	成田山王様	新潟	成田山王様			新潟県	成田山王様	鳥居の境内には「鮎供養塔」の供養を願う。この鮎供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
396	魚類	魚霊観音	成田山王様	新潟	成田山王様			新潟県	成田山王様	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
397	魚類	魚霊観音	小千谷市市民公園	新潟	小千谷市市民公園			新潟県	小千谷市市民公園	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
398	ウツ	記念鯛頭魚	吾山神社	新潟	吾山神社			新潟県	吾山神社	鳥居の境内には「記念鯛頭魚」の供養を願う。この記念鯛頭魚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
399	ウツ	鯛塚	六間洞	新潟	六間洞			新潟県	六間洞	鳥居の境内には「鯛塚」の供養を願う。この鯛塚、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
400	鳥介類	鯉鱒魚供養塔	鯉鱒魚供養塔	新潟	鯉鱒魚供養塔			新潟県	鯉鱒魚供養塔	鳥居の境内には「鯉鱒魚供養塔」の供養を願う。この鯉鱒魚供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
401	鳥介類	鯉鱒魚供養塔	鯉鱒魚供養塔	新潟	鯉鱒魚供養塔			新潟県	鯉鱒魚供養塔	鳥居の境内には「鯉鱒魚供養塔」の供養を願う。この鯉鱒魚供養塔、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。
402	魚類	魚霊観音	徳社	新潟	徳社			新潟県	徳社	鳥居の境内には「魚霊観音」の供養を願う。この魚霊観音、宮前及び鳥居の境内に12か所ある。

Appendix 2 Continued

№	魚種	魚類観察音	種山漁業協同組合	山梨	上野市上野原	1993	平成5年
470	魚類	魚類観察音	種山漁業協同組合	山梨	上野市上野原	1993	平成5年
471	魚類	(石塚)	山梨県水産技術センター	山梨	甲府市牛久		
472	魚類	魚類飼養塔	五ノ中余 榎本正一	山梨	甲斐市津島谷	1983	昭和58年
473	魚類	(石塚)	山中漁業協同組合	山梨	南都留山山中瀬村平野		
474	魚類	(空母斐)	山中漁業協同組合	山梨	南都留山山中瀬村平野		
475	魚類	魚類飼養塔	山中漁業協同組合	山梨	山梨市万力	1993	平成5年
476	コイ	魚類飼養の塔	山中漁業協同組合	山梨	碓氷市田市		
477	魚類	魚類飼養	山中漁業協同組合	山梨	上野市小牧橋千曲川下流		
478	魚類	魚類飼養	コタギ釣りセンター	長野	大町市平瀬	2009	平成20年
479	ウナギ	魚類飼養	関元生	長野	田代市川原	2002	平成14年
480	魚類	魚類飼養の塔	長南寺	長野	大町市平瀬	1989	平成元年
481	コイ	魚類飼養	貞徳寺	長野	佐久市山		
482	ヘラブナ	魚類飼養	みどり湖	長野	塩田市塩田町		
483	魚類	魚類飼養	安久瀬神社	長野	下高井郡山内町平尾		
484	魚類	魚類飼養	深田漁業協同組合	長野	松本市波田	1991	平成3年
485	魚類	魚類飼養	谷登川水産センター	岐阜	恵那市恵那川		
486	アユ	船上船の塔	休養三尺坊	岐阜	郡上市八幡町神町		
487	魚類	魚類飼養	山中漁業協同組合	岐阜	下呂市成瀬野田	1972	昭和47年
488	魚類	魚類飼養	山中漁業協同組合	岐阜	平呂市成瀬野田		
489	魚・アユ	魚類飼養	飛騨下呂温泉秋椿	岐阜	下呂市松之尾		
490	アマゴ	魚類飼養	栗島まじ里地	岐阜	下呂市小笠町清合	1977	昭和52年
491	アユ	魚類飼養	ローマン宮	岐阜	中央市黒田朝野谷(ふたあいか文化センター)		
492	魚類	魚類飼養	白根寺	岐阜	本巣郡北方町北方		
493	魚・鳥	魚類飼養	聖徳院	静岡	熱海市上野町	1959	昭和34年
494	魚・鳥	魚類飼養	蓮花公園	静岡	伊豆の国市修善寺町修善寺	1989	平成元年
495	イルカ	イルカ飼養	井土法隆内	静岡	伊豆の国市土肥町大坂	1959	昭和34年
496	イルカ	(空母斐)	井土法隆内	静岡	伊豆の国市土肥町大坂		
497	ウミガメ	魚類飼養		静岡	伊豆市		
498	イルカ	魚類飼養	三輪神社	静岡	伊東市川奈	1923	大正11年
499	イルカ	魚類飼養	揚光寺	静岡	伊豆市川奈	1977	昭和52年
500	イルカ	魚類飼養	いん漁協 富伊支所	静岡	伊東市岩戸	1945	昭和20年
501	クワ	魚類飼養	六所神社	静岡	豊田市福田町		
502	魚介類	魚介類飼養	福田漁協前広場	静岡	豊田市福田町	1990	平成2年
503	ウミガメ	魚類飼養	円通寺観音寺	静岡	豊田市福田町	1967	昭和42年
504	魚類	魚類飼養	円通寺観音寺	静岡	豊田市福田町	2000	平成12年
505	ウミガメ	魚類飼養	寺田家	静岡	豊田市福田町向間	1967	昭和42年

Appendix 2 Continued

672	マゴロ	法華塔	三重	紀伊町南山区北口溝	1823	天保4年	建立つち中氏、各口溝迄の明鏡池遺構、転写、つち中氏、権、地蔵尊をいささば、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
673	魚類	魚籠供養	三重	熊野市山崎町	1882	昭和17年	熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
674	魚類	鱒魚類遺骨の供養	三重	熊野市水本町	1882	昭和17年	水本町、熊野市水本町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
675	ケツラ	鯨魚供養塔	三重	熊野市二木島南橋之浜	1880	明治13年	明治13年、熊野市二木島南橋之浜、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
676	ケツラ	鯨三十三本供養塔	三重	熊野市二木島南橋川	1871	寛文11年	熊野市二木島南橋川、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
677	ケツラ	鯨・供養碑	三重	熊野市二木島南橋川			熊野市二木島南橋川、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
678	ケツラ	鯨・供養碑	三重	熊野市二木島南橋川			熊野市二木島南橋川、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
679	ケツラ	鯨・供養碑	三重	熊野市二木島南橋川			熊野市二木島南橋川、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
680	ケツラ	鯨・供養碑	三重	熊野市二木島南橋川			熊野市二木島南橋川、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
681	マゴロ	法華塔	三重	熊野市南町	1888	慶応4年/明治元年	熊野市南町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[吉原1982]、[松崎2004]、 [平賀編1994]
682	シラウオ	白魚塚	三重	熊野市市地蔵	1884	昭和30年	熊野市市地蔵、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
683	ハマグリ	蛸墳	三重	熊野市市中町	1823	文政6年	熊野市市中町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
684	シシユ	真珠貝供養塔	三重	志摩市阿努町神明	1857	昭和32年	志摩市阿努町神明、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
685	シシユ	真珠貝供養・石	三重	志摩市志摩町片田			志摩市志摩町片田、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
686	フナ/魚類	鯉真/他魚塚之霊	三重	志摩市志摩町片田	1868	昭和43年	志摩市志摩町片田、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
687	鮒/魚類	鯉真/他魚塚之霊	三重	志摩市志摩町片田	1884	昭和59年	志摩市志摩町片田、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
688	シシユ	地蔵	三重	志摩市志摩町高田一本松			志摩市志摩町高田一本松、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
689	シシユ	地蔵	三重	志摩市志摩町高田一本松	1836	昭和11年	志摩市志摩町高田一本松、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
690	ケツラ	鯉石	三重	志摩市大町大津渡	3・8・3・	建享年間	志摩市大町大津渡、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
691	ケツラ	地蔵石	三重	志摩市大町大津渡	1825	文政8年	志摩市大町大津渡、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
692	バガガイ	(常夜燈)馬飼貝巻 記念	三重	多気郡明和町大津	1821	大正10年	多気郡明和町大津、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
693	アユ	鮎供養塔	三重	津市白山町南家渡	1976	昭和51年	津市白山町南家渡、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
694	魚類	魚籠観音	三重	津市一志町江村			津市一志町江村、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
695	魚類	魚籠観音	三重	津市殿村			津市殿村、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
696	ケツラ	鯉供養之塔	三重	鳥羽市船橋	1889	平成元年	鳥羽市船橋、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
697	イルカ	イルカ供養碑	三重	鳥羽市船橋			鳥羽市船橋、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
698	ユムシ	南無阿弥陀佛蛸虫 供養碑	三重	鳥羽市小浜町	1887	明治30年	鳥羽市小浜町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
699	ユムシ	南無阿弥陀佛蛸虫 供養碑	三重	鳥羽市小浜町	1901	明治34年	鳥羽市小浜町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
700	イナ/ボラ	南無阿弥陀佛鮭 水産碑	三重	鳥羽市小浜町	1887	明治30年	鳥羽市小浜町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
701	コンシロイ	南無阿弥陀佛鮭 水産碑	三重	鳥羽市小浜町	1889	明治22年	鳥羽市小浜町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
702	コンシロイ	南無阿弥陀佛鮭 水産碑	三重	鳥羽市小浜町	1883	明治20年	鳥羽市小浜町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
703	シシユ	真珠一石・一碑	三重	熊野市市地蔵			熊野市市地蔵、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
704	シシユ	真珠ヶ島・碑	三重	熊野市市地蔵			熊野市市地蔵、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
705	シシユ	いっひ供養塔	三重	名張市夏屋			名張市夏屋、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[平賀編1994]
706	ケツラ	鯉観音	三重	伊賀郡蓮花町	1901	明治30年	伊賀郡蓮花町、熊野山崎町、天照しる、願、大洲は家産を供養したつち、その、願、つちの建立、瀬川、瀬川に石、各尊を供養し、瀬川の西側に、本年、水産を消野の瀬川初		[松崎2004]、[平賀編1994]

Appendix 2 Continued

748	魚類	魚籃観音	愛宕堂(観音殿)	大坂	大坂市天王寺区夕陽ヶ丘町	1796	宝暦6年	[吉原1982] 観文化中
749	・シラ	(雪隠権)	海光寺	大坂	大坂市東区川區海光寺	1668s	貞文8年頃	
750	・	鯉塚	大坂市堺内	大坂	大坂市東区中野町	1668s	貞文8年頃	
751	魚介類	魚貝油虫燈籠碑	船持社御所	大坂	新市出島	1962	昭和37年	
752	魚類	魚籃観音	船持社御所	大坂	新市出島	1962	昭和37年	
753	・	鯉塚	船持社	大坂	東中市本町1丁目			
754	魚類	魚籃観音	運持寺	大坂	船持寺通明寺			
755	魚類	魚籃観音	普賢寺	兵庫	明石市大観町	1982	昭和57年	
756	・二	鯉塚		兵庫	明石市			
757	魚類	魚籠観	千早川漁具伝承館	兵庫	高砂町上郡千早町	1989	平成元年	
758	ナマズ	(鯉神社)	白井神社	兵庫	船持市東田町			
759	魚類	魚籃観音	白旗観音寺(生竹山観音寺)	兵庫	加古川市東上町志田	1980	昭和55年	
760	魚類	魚籠成仏之塔	福徳町漁協	兵庫	加古郡福徳町西宮	1790	寛延3年	
761	カハ	鯉大師	百代寺	兵庫	加西市東町			
762	魚類	(竜神注瀧)	船持供養碑	兵庫	加西市上津野			
763	魚類	船持供養碑	船持供養碑	兵庫	神戸市長田区長田漁港	1988	平成10年	
764	・ミメ	大漁亀之童	船持供養碑	兵庫	神戸市長田区長田漁港	1844	昭和19年	
765	魚類	魚籠感樹之碑	中央市赤井塚本場	兵庫	神戸市長田区中之島	1992	平成4年	
766	魚類	魚籠供養碑	浮来川漁協水榭前	兵庫	三田市小橋	1958	昭和33年	
767	・ユ	あつ供養之碑	正起	兵庫	兵庫県山崎町南名			
768	魚類	魚籠供養之塔	船持漁協	兵庫	・・・市御津町早見	1966	昭和41年	
769	・ミメ	(鯉塚)	大御山頂	兵庫	船持市津山			[小島2005]
770	・ニ	かがこしう	但馬漁港津田漁協船前	兵庫	高岡市津島山			
771	・ニ	重電之墓	津島漁港	兵庫	高岡市津島山	1996	平成8年	
772	・ミメ	ニジマスほ供養碑	津島漁港	兵庫	高岡市津島山	1737	元文2年	
773	ニジマス	ニジマスほ供養碑	津島漁港	兵庫	高岡市日高町十戸			
774	・	船持供養(行基) 行基塚	西宮市御所津田津島山頂上 船持漁協船持供養(行基)塚	兵庫	高岡市日高町十戸			
775	・ミメ	御電塚	阿方漁港	兵庫	南あがた阿方西町	1937	昭和12年?	
776	魚類	魚籃観音像	福泉漁協	兵庫	南・・・市福泉			
777	魚類	淡水魚供養塔	赤入漁	奈良	平気町東区家生ダム			
778	ヘラナ	うづ船供養塔	八幡橋正・ 八幡橋近・	奈良	奈良市月 船橋			

Appendix 2 Continued

886	鳥居	鹿野神社	大田山正徳 漁業協同組合	広島	山縣安彦太田町加計	1989	平成11年	田口理恵、平原山正徳に奉納して建立、大塚啓由とて、前川町に祀られていた、との目的を掲げ行幸して、真直等の高麗石に手置された、その上に小石を籠め、柱間に鯨板を積み、串つもを飾った。	[松嶋2004]
887	クワシ	鯉魚池	阿蘇町中田福壽	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]
888	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
889	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
890	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
891	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
892	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
893	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
894	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
895	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
896	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
897	クワシ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
898	クワシ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
899	クワシ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
900	クワシ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
901	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
902	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	
903	ウミガメ	鯉魚池	山口	阿蘇町中田福壽	1868	昭和43年	長瀬幸三(1868-1932)が、阿蘇町中田福壽の長瀬幸三(1868-1932)による。	[松嶋2005]	

Appendix 2 Continued

936	クヅラ	鯉之供養塔	証証のほな	愛媛	宇和島市道子権臣	1888	昭和63年	源氏朝田心奉願堂建立。1888年に源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔吉野1982〕、〔武智1996〕、HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
937	クヅラ	飛鯉塔	田の島	愛媛	宇和島市道子権臣島	1835/6/1841	文化3年が弘化3年	飛鯉塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔吉野1982〕、〔武智1996〕、HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
938	魚屋	魚貝漁業祭祀塔	魚の丘	愛媛	宇和島市道子島泊	1897	昭和62年	魚の丘の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
939	魚屋	（魚屋塔）	道徳碑め立て地	愛媛	宇和島市道子	1973	昭和48年	道徳碑め立て地の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
940	魚屋	（魚屋塔）	竜元島	愛媛	宇和島市道子	1978	昭和53年	竜元島の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
941	フリ	鯛味噌世帯守護	恵比須島	愛媛	宇和島市清島町北瀬	1882	昭和57年	鯛味噌世帯守護の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
942	シシユ	真珠貝供養塔	大島の島	愛媛	宇和島市清島町南	1880	昭和55年	真珠貝供養塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
943	魚屋	三享齋魚介供養	鹿島漁港	愛媛	大洲市長浜新下浜	1881	昭和56年	三享齋魚介供養の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
944	タイ	大漁記念碑	江ノ島	愛媛	越前郡上島町江ノ島			大漁記念碑の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
945	タイ	（びすやもんん牌）	魚島西の沖海岸	愛媛	越前郡上島町魚島			（びすやもんん牌）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
946	クヅラ	（鯉骨鯉馬）	八雲宮	愛媛	四国中央市川之江	1884	文久4年	（鯉骨鯉馬）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔吉野1982〕、〔武智1996〕
947	魚屋	魚雷塔	泊崎島	愛媛	宇和島市三軒下泊	1882	昭和57年	魚雷塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
948	クヅラ	鳴門大瀬崎子墓	楠の浦	愛媛	西予市南浜町瀬崎西邸	1870	明治3年	鳴門大瀬崎子墓の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
949	クヅラ	藤三院院法界全果大居士	鶴の手	愛媛	西予市南浜町高山	1837	天保8年	藤三院院法界全果大居士の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
950	クヅラ	（過玉帳）	妙高山金剛寺	愛媛	西予市南浜町高山	1837	天保8年	（過玉帳）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔吉野1982〕、〔田嶋2004〕
951	クヅラ	（位牌）	妙高山金剛寺	愛媛	西予市南浜町高山	1837	天保8年	（位牌）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔吉野1982〕、〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
952	クヅラ	市大魚之霊	子神岩	愛媛	西予市南浜町新野瀬	1907	明治40年	市大魚之霊の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、〔田嶋2004〕
953	クヅラ	（徳塚）	西予和歌伊勢舟車	愛媛	西予和歌伊勢舟車	1882	明治20年代	（徳塚）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
954	クヅラ	大業妙典一宇一石鯉政塔	旧川之原小学校敷地	愛媛	西予和歌伊勢舟車川之原	1880	明治20年代	大業妙典一宇一石鯉政塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、〔宮原2008〕、動物の介護HP
955	クヅラ	（徳塚）	漁港	愛媛	西予和歌伊勢舟車	1882	明治初年	（徳塚）の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
956	クヅラ	鯉地蔵	フェリス一乗り堀近の三楽路	愛媛	西予和歌伊勢舟車三崎	1838	天保9年	鯉地蔵の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
957	魚屋	魚屋供養塔	漁港	愛媛	西予和歌伊勢舟車三崎	1881	昭和35年	魚屋供養塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕
958	クヅラ	道海魚鯖普賢位	漁港	愛媛	西予和歌伊勢舟車小島	1879	明治12年	道海魚鯖普賢位の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
959	ウミガメ	龜大明神	須賀公園入口	愛媛	西予和歌伊勢舟車三机			龜大明神の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP
960	クヅラ	妙齢之位	須賀公園入口	愛媛	西予和歌伊勢舟車三机	1889	文化6年	妙齢之位の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、動物の介護HP
961	魚屋	魚魂	須賀公園	愛媛	西予和歌伊勢舟車三机	1975	昭和50年	魚魂の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔武智1996〕、動物の介護HP、〔宮原2008〕、動物の介護HP
962	クヅラ	捕鯉供養塔		愛媛	西予和歌伊勢舟車取	1929	昭和44年	捕鯉供養塔の建立。源氏朝田ハチの願ひにより山形川に鯉の供養塔を建立。鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。鯉の供養塔は、鯉の供養塔、鯉かごとん奉安堂と併せて建てらる。	〔宮原2008〕、動物の介護HP

Appendix 2 Continued

1000	魚雲	千土郎公園	福岡	八女郡立花町大字北山中川原	1813(1714)	延享5年	正面、「南無阿弥陀仏(万葉歌成仏)」背面「万葉歌成仏 延享5年庚辰七月14日 中川原四兵衛重次建立小沙弥。	[高岡2004]	観文化HP、 [高岡2004]
1001	・ジラ	鯛塚	福岡	行橋市菅原	1903	明治36年	佐伯川邊重要伝統的建造物群保存地区「鯛塚」内に鯛塚古墳群があり、毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]、動物文化HP、[松岡2004]	
1002	・ル・	龍王大神社	佐賀	伊万里市唐原	1821	天保10年	龍王(御祭神)は、源氏を祀る。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1003	・ル・	龍大明神	佐賀	伊万里市山田(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1004	ナマス	水掛コナマス	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1005	・ジラ	龍舟競流必須	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1006	・ジラ	石巻重北須賀	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1007	・ジラ	(佐賀)小川島船	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1008	・ジラ	龍(龍)船院	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1009	・ジラ	鯉船千本供養塔	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1010	・ジラ	鯉船供養塔	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1011	・ジラ	南無阿弥陀仏(万葉歌成仏)	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1012	・ジラ	鯉船供養塔	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1013	・ニ	鯉心碑	佐賀	唐津市唐津(佐賀運送)カニ・島	1843	昭和18年	延享5年(1754)、徳川幕府(徳川家康)の御願で建てられた。毎年、魚雲渡り舟・、川魚心供養祭、行います。	[高岡1982]	
1014	・ミ・メ	(竜塚)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1015	・ミ・メ	(竜塚)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1016	・ミ・メ	(竜塚)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1017	・ミ・メ	(竜塚)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1018	・ミ・メ	(竜塚)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1019	・ル・	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1020	・ル・	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1021	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1022	・ジラ	孝慈講大家紗一(千部)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1023	・ジラ	(興子観心墓)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1024	魚雲	春一番心塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1025	若子	赤子供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1026	・ジラ	鯛塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1027	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1028	・ジラ	為龍船成仏	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1029	・ジラ	鯉塚	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1030	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1031	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1032	・ル・	龍王社	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1033	魚雲	龍王社	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1034	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1035	・ジラ	鯉船供養塔	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1036	・ジラ	(三年龍船)	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1037	・ミ・メ	龍王社	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	
1038	・ジラ	龍王社	長崎	壱岐市石田町	1897	平成9年	早稲田5月10日、印通寺・魚雲渡り舟と、ミ・メ、石田町動物園跡・壱岐丸と、	[藤井2008]	

1040	魚類	魚籠観音	備前観音	長崎	長崎市中町町内へ遷	1987	昭和62年		漁翁阿弥宗元(1693)の「魚籠観音」建立。10月に漁翁阿弥宗元(1693)の「魚籠観音」建立。10月に漁翁阿弥宗元(1693)の「魚籠観音」建立。10月に漁翁阿弥宗元(1693)の「魚籠観音」建立。	[吉原1982]、観文化HP、松崎2004]
1041	魚類	海神	野崎神三郎漁協	長崎	長崎市神崎町	1692	元禄5年		平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	[吉原1982]、松崎2004]
1042	クワラ	鯉三十三彦生	真盛寺	長崎	平戸市大島村(的山大島)				平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	[吉原1982]
1043	クワラ	鯉へ供養塔	真盛寺内へ井ノ家へ墓地	長崎	平戸市大島村(的山大島)				平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	[吉原1982]、松崎2004]
1044	クワラ	鯉供養塔	真盛寺	長崎	平戸市上町	1695	元禄8年		平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	[吉原1982]、松崎2004]
1045	クワラ	鯉供養塔	真盛寺	長崎	平戸市上町	1898	昭和13年		平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	[吉原1982]、松崎2004]
1046	クワラ	鯉供養石五重塔	長崎寺	長崎	平戸市上町	1729	元禄4年		平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。平戸藩方領へ遷移。	矢野1981]
1047	魚類	鯉供養塔	平戸市漁協	長崎	平戸市上町					
1048	魚類	鯉供養塔	志々伏漁協	長崎	平戸市志々伏町					
1049	魚類	生月魚籠観音	白山神社	長崎	平戸市生月町	1890	昭和55年		生月魚籠観音(1986年)、生月魚籠観音(1986年)、生月魚籠観音(1986年)、生月魚籠観音(1986年)。	観文化HP
1050	クワラ	鯉供養石五重塔	長崎寺	長崎	平戸市生月町	1729	元禄4年			観文化HP
1051	クワラ	鯉供養石五重塔	長崎寺	長崎	平戸市南浦西町	1712	正徳2年			[松崎2004]
1052	クワラ	鯉予三百筋二本供養塔	徳見山	長崎	南浦西町上五島町有田部津長					[松崎2004]
1053	クワラ	鯉(鯉音門)	海徳神社	長崎	南浦西町上五島町有田部津長					[松崎2004]
1054	クワラ	海徳坊塔	海徳神社	長崎	南浦西町上五島町有田部津長					[松崎2004]
1055	クワラ	鯉神社	南浦西町上五島町有田	長崎	南浦西町上五島町有田					[松崎2004]
1056	クワラ	鯉(供養)	徳見山、徳見神社	長崎	南浦西町上五島町有田部津山口					観文化HP
1057	クワラ	南無阿弥陀仏(鯉白六頭像)	徳見山	長崎	南浦西町上五島町有田部津	1896	元禄9年			[吉原1982]、観文化HP
1058	クワラ	鯉日本供養	徳見山	長崎	南浦西町上五島町有田部津	1744	寛保4年			[吉原1982]、観文化HP、松崎2004]
1059	クワラ	鯉重徳塚	徳見山	長崎	南浦西町上五島町	1896	元禄9年			[吉原1982]、観文化HP、松崎2004]
1060	クワラ	一字一石へ供養墓	徳見山	長崎	南浦西町上五島町有田部津	1900?	明治中頃			観文化HP、松崎2004]
1061	ナマズ	鯉音	徳見山	熊本	阿蘇郡一宮町手野					[松崎2004]
1062	魚類	招魚観音	天草市漁協	熊本	天草市高浜					
1063	魚類	エビス像	鳥子漁協	熊本	天草市有明町大島子	1979	昭和54年			
1064	ウミガメ	(空母塔)	熊野町漁協	熊本	熊野町	1990	平成2年			
1065	ウミガメ	(龍へ遷)	熊野町漁協	熊本	熊野町					[小松2005]
1066	ウ	じゃく女史顕彰碑	住吉神社境内	熊本	宇土市住吉町	1963	昭和38年			[小松2005]
1067	魚類	魚籠観音	向嶽寺	熊本	上天草市北島町合津					
1068	魚類	海徳社	熊本清水研究会センター	熊本	上天草市大分町中	1991	平成3年			
1069	ナマズ	鯉神社	熊本神社	熊本	上天草市大分町中					
1070	ナマズ	鯉神社	熊本神社	熊本	上天草市大分町中					
1071	魚類	エビス像	熊本神社	熊本	上天草市大分町中					
1072	ナマズ	鯉神社	阿蘇神社	熊本	上天草市大分町中					
1073	ナマズ	鯉神社	阿蘇神社	熊本	上天草市大分町中					
1074	クワラ	鯉(徳見山)	徳見山	大分	日田市徳見山					[松崎2004]
1075	魚類	三界魚籠等	大分県漁協	大分	日田市徳見山	1897?	天保年間			[松崎2004]
1076	クワラ	鯉(徳見山)	徳見山	大分	日田市徳見山	1917	大正6年			[松崎2004]
1077	クワラ	鯉(徳見山)	徳見山	大分	日田市徳見山	1871	明治4年			[松崎2004]

Appendix 2 Continued

Table with columns for fish names, locations, dates, and descriptions. Includes entries for various fish species like 鯛, 鰻, 鮒, and their historical and cultural significance in different regions.

都道府県コード(JIS X0401)の欄には、市町村はあつたお国で並べ、市町村一から沿革情報などを検索可能なようにしている。
「参考文献」の欄には、漁協などの関係団体への調査アンケートへの回答に基づいた情報がある。また、インターネットからの情報は、「参考文献」の欄にはURLを示す。